昭和二十九年（1954）七月十八日（日）　THE MIIKE　（毎週日曜日発行）　（昭和27年9月25日第三種郵便物認可）　第八拾参百参拾号　（一）

みいけ

発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
資鉱 528 475 番

編集人 発行人 平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鉱労組
機関紙

見え透いた小出しの手

第二次案、三井は五・一〇〇円

期末手當 敢然実力行使を続行

十二日三井、三菱五・一〇〇円、古河五・五〇〇円、その他五・二〇〇円を提示して来た。組合側はこれを不満として同日第十一回中闘委員会を開催して、期末手當要求額獲得のため十五日以降八社の中、北炭の夕張、幌内を職組を含めて一社重点の一齊無期限ストライキの指令を發した。

大衆行動を起せ

一社重点闘争により指弾（妥結）決定した。三井＝芦別、田川　住友＝赤平　明治＝昭和、赤池　太平洋＝太平洋＝三菱＝塚戸　古河＝大峰

ストを行わない支部は、スト決行支部に闘争激励（電報、電話、激励文、口頭による激励）等を行うとともに要求額獲得のため大衆動員を行うよう指令を発している。

六千三百圓は不滿だ

北炭は十四日午後八時四十分からが、会社休憩に入り十五日朝に至るも再開に至らず、北炭は予定通りストに突入した。十五日午後四時三〇分に至り六千三百円提示したが、組合は不満として一蹴し、再考慮を申入れた。会社は再考慮することを言外に含めて別れた。

賃金カンパは八社プールで行うも円九八銭）を決定した。

職員八〇円九七銭）、鉱員（五三

のとし、その額は後日決定する。なお北炭の夕張、幌内の重点ストに対する賃金カンパ額は一日当り

われ〜は、どんなに貧困様の状態になつてしまつても、働く能力さえもつておれば他人の世話にならなくても、働いて食つていけるはずなのだ。一国の経済もこれと同じである。働こう、儲おう、これは今日の労資関係の原則であるが、儲われたからといつて労働者は歴主のお世話になつているわけではない。買ろう、買おう、これは今日の貿易の原則であるが、どちらかがどちらかのお世話になるわけではない。

そこで、もし、アメリカがそれほど輸出を必要とし、他国がそれほどアメリカからの輸入を必要としているなら、他国はアメリカから輸入するだけのものをアメリカに買りさえすればよいのである。カネがなくてもこのことだけはできる。カネのない労働者は労働さえも買るのだから。その労働者も原則として働いている限りは辛うして食えるはずだから。だから日本は辛うして食うだけなら、全部の人

寄稿　アメリカの援助（下）

がアメリカに対して労働者のようになつてしまつてもやつていけるのだ。

「援助」、それは儲わない、買わない、たゞ品物を出そう、その代り、という新しい意味での「アメリカ製」輸出である。

戦后他国がアメリカにしてもらいたかつたのは援助ではないアメリカの輸出であり、輸入である。それにアメリカは輸入の方をうんと狭く閉ざし、援助という方法を選んだのである。

現在アメリカほど他国の品物に重い関税をつけ、いろ〜の難くせをつけて、他国の輸出を邪魔している国はない、といわれている。それだけではない。アメリカは他国が共産圏に輸出することさえ拒んでいる。つまりアメリカは他国がどこへも輸出できぬように努力して圧力を加えているのである。

他の国が輸出できないようにしておく効果は何だろう？

第一はアメリカの「援助」の感謝にすがる度合を高めること。

第二はアメリカの輸出競争相手国を突然にやつゝけておいて生産過剰のときに、アメリカだけが輸出できて、不況の影響が少くてすむこと。

第三は共産圏と貿易した国にはアメリカがそれを一番先に妨害にとれるようにすること。

第四は相手国の輸出の行詰りから、不況になつた、敵対感情が出てきたりすることから軍備競争を作り、アメリカの軍需品の輸出（軍事援助）を盛んにしてアメリカの武器の生産過剰を緩和すること。

要するにアメリカの対外援助は、それが経済援助であれ軍事援助であれ、一種の輸出である。

一方的な輸出である。それはまた同時に、来るにきまつている不況期にそなえての闘争の、むしろ得になる、保険料なのである。税金等ほとんどのアメリカ人が外国を援助するために高い税金を払つて「援助」を歓迎するのはこの保険のためである。しかしその保険料はアメリカの国民が支払う。保険金はアメリカの資本家が受取る。

アメリカの対外援助は、アメリカの資本家の「社会保障」なのである。

それは、アメリカの国民の貧乏の原因であり（だからアメリカの国民は外国の品物を買えない）、援助をうける国民の貧乏の原因である。

それは、アメリカの「死の商人」の製品である。

九大助教授　奥田八二

斗う決意を宣揚

生協問題に寄せる職場大會

物資課職鑛合同職場大會は、辰炭労の指令に基づいて、十三日はるまで続々と参集、各分会共一齊に抗議職場大会が開かれたが、中でも本所支部物資課は、二百名を突破すると共に、十二分会）は午後五時より労働会館において開催、定刻には地理的悪条件にもめげず、北は渡瀬より南は緑ケ丘、四ツ山地区豊浦、至る迄の八割からの出席は、映勞者当時三〇分に至り六千三百円提示し

組合員の生活水準を的確に調査の上、将来の闘争の組み方、生活指導の資料とするため生活実態調査の実施につき協力方を要請、満場一致これを承認

期末手当経過報告に対しては「こゝまで来た以上腰を据えてやつくりやれ」との意見が述べられ最後に九炭労闘川副委員長から、休廃山、賃金の遅欠配に悩む中小炭鉱労働者の窮状が特に報告され、組織愛、同志愛の見地から早急救援の手をさしのべて貰きたいと共に、闘争の拍手がこれにこたえる決定した。

組合は内部分裂を點検せよ！

三川　仕繰工来

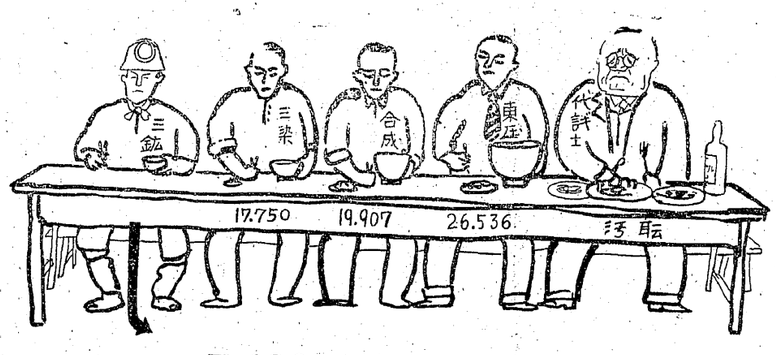
職場大会参加の多い処と少い処があるが、少い処は職制が強いとか反動ボスが居るとか思われるので、その分会の人員が弱いとクサス前にその分会の内部を充分検討すべきだ。

よそ並みに貰わねば

宮浦外運来

賃金が低くて赤字が積り積つているのでどうしてもよそ並に貰わねばやつて行けない。

長に石丸氏を選出。議長より「団中島厚生部長より、「闘争経過報告」と共に、本大会参加者には特氏の経過報告に次いで、本所支部の力強い挨拶、第二十一分会藤上氏の力をもて要求をかち取らん」という「配転の問題については細目の点は決定していないので断言は出来ないが、好む時に好む処に行けるのが一番よいが、皆一番好む処に行けるかどうか、それはその様に努力する以外はない」「生協要員としては当分の間、聞給所従業員を以て充当することを立前とするが、その待遇は給与差額保障を含め、別途協議することになつているので心配はいらない」等の答弁があり、「此の問題は其の理想とする処はよく分るが、我々にして見れば浮沈の問題であるので関心を持たざるを得ないが、細目の点まで行つていないので、この点については厚生部大衆と充分話し合い、納得した形において実施して欲しい」との要望を附して報告を諒解、次いで議事に入り、山川社長に対して、不誠意な回答に対する抗議文と、我等断固闘わんとの決議文を満場拍手を以て採択、動議として二十分会より「中闘に激励電を送りたい」、十八分会より「社宅居住者炭婦協加入促進の件」、十九分会より「校区地域分会結成協力の件」、二十三分会より「各職店より一名の代表を出して、物資課の生協対策委員会（仮称）を作りたい」との四件が出され、満場異議なく可決、意見発表は時間の関係で省略、映画「



タッタ5,100圓では話にならぬ

生活の保障をせよ

再び我々は知つた

会社の正體は是だつた

昨年十一月二十七日会社、組合間に取交はされた協定書の第一項を忘れていない吾々は会社の回答を期待した。ところが出た答が四千六百圓、そんな馬鹿なと云つて最後回答を迫ると五千百圓、これで何が明朗な職場建設だ。裏切られた労働者の憤激は地域で職場で燃え始めた。

四三億にオビエルナ

三川鉱　常一某

一万四千五百円なんか要求額が少いから会社の言い出しも少いのだ四三億の赤字に余りにも組合はオビエ過ぎている。

首切頃を振返つて見ろ！

平井線で通勤者

首切の初めごろ新聞に折り込んだのには首切が終るとよくなると言つて、これが終ると赤字だとワ。二五年の首切の時もこんなことが言われたが、其後の期末手当では退職金の借りがあると言つた。俺達は狐にタブらかされているみたいだ。

ストは會社が持ちかけている

四山鉱　仕繰某

どうして会社は誠意ある回答をしないだろう。常日頃は帽子脱いだとか、何とかいうが、金を出す段になると信用にならない事をやるだから我々もストをやらざるを得ない訳だ。

中小救援に起つ

その他總評大会對策などを決定

第五回中央委員會

第五回中央委員会は十二日午前九時から労働会館で開催、報告事項では三鉱運執行委員会を北岡書記長、西鉱運執行委員会を北岡書記次長から夫々報告、確認を受け、次いで山下書記次長から組合員の生活水準を的確に調査の上、将来の闘争の組み方、生活指導の資料とするため生活実態調査の実施につき協力方を要請、満場一致これを承認

期末手当経過報告に対しては「こゝまで来た以上腰を据えてやつくりやれ」との意見が述べられ最後に九炭労闘川副委員長から、休廃山、賃金の遅欠配に悩む中小炭鉱労働者の窮状が特に報告され、組織愛、同志愛の見地から早急救援の手をさしのべて貰きたいと共に、闘争の拍手がこれにこたえる決定した。

△農業委員選挙に關する件

馬場井ゼキ問題で活躍した川口国五郎氏を労農提携の建前から三鉱労組として推薦。

△中小炭鑛勞働者救援カンパの件

組合と炭婦協が協力して積極的にカンパを行う。

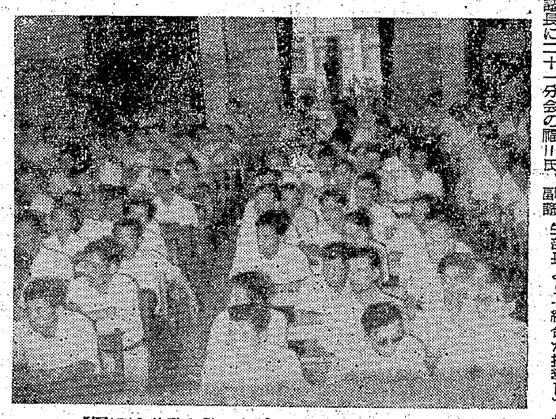
△地勞委選出に關する件

九炭労に二名の割当が来て居り、三池から菊川副組合長を推す。

△總評大會對策に關する件

高野、太田両氏の決戦をさけるよう労力してもらうが、決戦という事態に至つたら高野氏を推すよう宮川組合長に打電する。その他を以上で報告事項を終り閉会に入る

午後九時。



【写真は労働会館における物資課の職場大会】

前進

組合の政治活動禁止法を監視せよ

最近「反動政策」というとわれ〜にとつては余りにも耳なれた言葉になり過ぎ、かつ余りにも矢つぎ早やに飛び出して来るので応接にいとまがないほどである。

然し、こゝ一年前後の間に言論、風潮、行動等あらゆる面における自由の束縛は、ふり返つてみて気が付くのではその避きに失する弊害が大き過ぎる。

この欄で取り上げようとする労働組合の政治活動弾圧の意図も、後の祭りになつては組合の命取りになる重大な問題であると思う。

（二）

今、五党小委員会で論議されている政治資金規正法にしても、自由党の野望はかくしきれるものではない。

即ち若干の条件が前提となつてはいるものゝ、労働組合の政党献金を禁止する意図は明白であり、ひいては政治活動自体の弾圧にまで発展することは過去の歴史が証明している通りである試みに自由党から提案されている妥協案なるものゝ骨子は次の通りである

①国と調査その他の特殊の契約をしている会社、法人

②国が「経営を補助する目的」で補助金等を交付している会社、法人

③国が利子補給、損失補償などを行つている会社、法人

④国が資本金を出資している会社、法人

⑤国が借入金の元利支払の保証をしている会社、法人

⑥外国の法人、会社

⑦公務員、公共企業体職員の職員団体

⑧前項①〜⑥に該当する会社、法人の職員による労働組合

右の該当者は政党に対する献金を禁止しようというのである。（七月十五日附朝日新聞所載）がこの案で行けば労働組合のように一銭一厘も勝手に出来ない団体だけが厳格な規正を受け、闘献金が中をきかす会社などが網の目を逃れることは必定である。

のみならず組合が献金をしたり、選挙の為の金を使うのは革新政党に限られていることは百も承知の保守政党が組合活動を封ずるねらいに出ることも又当然のことであろう。

（三）

われわれはこのような問題が既に五十年前に英国で試験ずみであり、その為に英国の労働者が長い間政治的な進出をはゞまれて苦しんだことを知つている。

「九〇一年、タップヴェール鉄道会社の争議に際し、ストライキにより会社の受けた損害を弁償すべしとの判決をされた組合が、総額約二十万ポンド（日本円約二億）の出血を受け、涙をのんでから数年間、全英国のストライキは影をひそめてしまつた。そしてこの惨敗の原因が、組合の政治中斗（国会議員）を議会に送つていないことにあるとして、労働党の育成（四年後には三倍）と労働党議員の大量進出（一九〇一年には二名、一九〇六年には二九名）に成功し、ストライキによる損害は賠償の義務が無いことを明らかにした労働争議法を獲得したのが、一九〇六年のことである。

このために資金に乏しい英国の労働党が急速に進出し一九〇五年には炭鉱出身の自由党議員十四名が労働党に加入する等、労働者の発展はめざましいものがあつた。

しかし、このような状態を資本家階級がたまつておくはずがない。資本家は、ストライキが曲りなりにも保護されているとは言へ、既に官公労働者はスト権を奪はれ、更にスト規正法の制定によつて事実上ストの生命は最後の圧力をかける瞬間には弾圧され、資本家が困る時には警察が出て来る始末である。ストによる損害賠償を命じたかつての英国の反動と何ら異ふところはない。そして今度の政治資金禁止法の提案である。火の粉が降りかかるまでよその出来事と思つていては間に合はない。組合が政治闘争に走り過ぎなどと言う資本家のロマネをしている間に労働基準法も労組法も改悪されて労働者は法の保護どころか、資本家の挑戦の前に丸ハダカにされつつあるのが今である。逆に首切りと賃下げと労働強化が法によつて保護されようとする現在である。

われわれに最も身近かな問題として政治資金規正法を監視しよう。

×　×

夏季文藝　原稿募集

△創作

題材自由、四百字詰原稿用紙十枚程度、二、三回に連載予定

▲賞金一等一萬円、二等　同七百円、三等　五百円、他に佳作若干篇に賞品贈呈（週番未定）

△感想文

内容＝組合員の場合は感想文「どうしたら組合を強化出来るか」「地方闘争に望む」

主題＝四百字詰三枚程度▲賞金一等一篇五百円、二等同三百円　三等同二百円佳作若干篇に賞品を贈る　▲週番編集部

△学童綴方

小学生は「海水浴」中学生は「日曜日」「社宅」八百字以内応募資格は組合員の子弟にして中、小学生、原稿末尾に父兄名、学校　学年別、本人の氏名明記の事▲賞品入週三篇並に佳作数篇に夫々賞品を差上げます。（編集部）

△短詩文藝

一、詩自由題材二、短歌「旦」（週番岩本宗二郎）三、俳句「金魚」「朝顔」（週番未定）四、川柳「潮干狩」「キャップランプ」（週番片山玄風）

▲賞金＝天三百円、地二百円、人百円、佳作若干篇に賞品

◎その他漫画、替え唄、喧くらべ等でも結構です。掲載分には賞品を呈します。

△写眞

題「自由」四ツ切、裏面にテーター記入の事

▲賞金＝推薦一千円、特選七百円、入選五百円、佳作に薄謝

△締切＝七月末日（写眞に限り八月五日）

△宛先＝支部教宣部経由又は組合本部「みいけ編集部」宛

一時間休憩（第一部）

廣澤修功作
久慈盛一画

（一）燃えるボタ山

昭和十七年三月、春の訪れと共に組合の改選は行はれ、慌しくひと月たちるかた月は過ぎ去つた。雨の日でさえ白煙を出して燃え続ける「ボタ山」の熱風と煙が、夕暮いますから僕に構わず先に帰つて下さい。」

「ちゃ、すまんがお先きするよ。僕もつくり考えてみるから、失敬。」

少し前かゞみに歩く組合長の大きな身体は、暮れかゝつた急勾配の坂道にいたのも、この事を是非やりとげたかつたからですよ。今のまゝいつたら調査給等の将来はどうなるかと思うと、全く憎い気持に追込まれてしまうんですよ。」

「判りました。それにしても、一人で、もう少し考えてみたいと思う。」

暗かな口調ではあつたが、吐いて行く一言々々には熱と力が満ちていた。

「そりやその通りで、我々も君と全く同意見だが、然しだよ、疲労という大きな統一組織をもつてしてもそれ程困難な問題だからねぇ、思い切り涙がつきるまで泣いあんた一人のせいでもないし、そてみたかつた。「調査給の撤廃」

「完全一時間休憩の実施」と、あれほど絶叫して来たものは反抗にも似た「一時間分組合が負担するなら休んでやつてもいゝぞ」「俺達のメシ数を減らせと言うのか」「執行部の者には我々採炭の苦しさは判んでやつてもいゝぞ」「俺達のメシ数を減らせと言うのか」「執行部の者には我々採炭の苦しさは判るまい」等冷たく浴びせかけられた言葉の数々、是が労働者の現実の姿であり、意識なのか？　救はれない労働者？　いや

「あなた、あなたは根本的に労働者の考え方から改革し、生活を守る事こそが今後の組合の在り方だと仰言たわ。貴方の今年の仕事は完全一時間休憩実施の獲得だと……是位の事で自信を失つたの？」

たまらなくなつて、顔に手を当てた運尾の眼に浮んで来るのは叱咤する如く、又いたわる如く、慈悲にも映りくる妻奈津江の顔だつた。そうだ、今でも最大の理解者が一人いるではないか。先づ俺達の一歩を踏み出すのだ。

「そりゃ、そうだよ。」

「判つたよ、さつきから言つていると、どうかな、今日はそう言うところで早く帰つては？」

「頭を少し休ませたがいゝんじゃないかな。」

と言つたもの、月田自身も悩みは同じで、責任のとりこになりそうだつた。深く吸い込んだ煙を少しづつ吐き出しながら、俺の若いときにそつくりだなーと、優しさを含め、我ながら妙なことに感心し、過去への運想の中かの夢の中に強く受止められていた

う落胆する事もないさ。所謂時期尚早と言う事だよ。」

「では時期が熟するまでほつとけと言うんですか。採炭の人達が、その家族の人達がどうなつても知らんと言うんですか？」

即答を迫るかの如き運尾の視線をうけ、重たい気分になりながららんのだろう。三千円の減収はどうしてくれる？」等冷たく浴びせかけられては困るよ。事を運ぶにはやはり段階があるからね……。」

「そりゃ僕も、一回や二回位で自分の希望しているようになるなどそんな甘い考え方は持つていない積りだし……。」

何時も考えこむときのくせで、月田はうつむきながら頭の後を掻く癖くコツ〜と叩きながら、

「判つたよ、さつきから言つていると、どうかな、今日はそう言うところで早く帰つては？

頭を少し休ませたがいゝんじゃないかな。」

と言つたもの、月田自身も悩みは同じで、責任のとりこになりそうだつた。深く吸い込んだ煙を少しづつ吐き出しながら、俺の若いときにそつくりだなーと、優しさを含め、我ながら妙なことに感心し、過去への運想の中かの夢の中に強く受止められていた

◎◎◎◎◎◎◎◎

三鉱労組港務支部指定店一覽表

◎◎◎◎◎◎◎◎

安い店　買い良い店

大牟田地區

遠藤本店　旭町商店街　電三一六二番
遠藤洋服店　旭町商店街　電四五四九番
小宮洋品店　緑町バス停前　電三三五〇番
龍商店　緑町　電三〇九八番
マルイチ商會　東新町　電二〇七六番
大黒屋　有明町　電三九三二番
井上靴カバン店　有明町　電二七〇五番
チャップリン　旭町商店街　電四五一七番
古賀時計店　銀座通り　電四七四〇番
青木電氣商會　日之出町　電四六三六番
松永家具店　元町　電三八六三番
山本　誠一自轉車店　本町六丁目　電四一七六番
山本　金次郎自轉車店　元町　電四六六七番
牛島自轉車店　東新町四丁目　電三九〇七番
諸岡ミシン商會　岡町　電二八〇三番

荒尾地區

大萬吳服店　荒尾県道　電酒三一五番
古賀吳服店　荒尾県道　電酒一三六番
すみれ洋裝店　荒尾県道　電酒三三六番
濱村專心堂　上ノ路　電酒二一三番

三川地區

坪井吳服店　三川町五丁目　電六〇七六番
たごもり　三川町三丁目　電六一二五番
郷田吳服店　三川町四丁目
えみや服地店　三川町二五八番
永田雜貨店　三川町一丁目　電六二八九番
古賀雜貨店　三川町四丁目　電六〇七五番
菊池雜貨店　三川町五丁目　電六一五九番
田島屋　三川町四丁目　電六二一五番
キリンヤ　三川町四丁目　電六三八八番
伊勢乃屋　三川町二丁目　電六二四四番
小柳ふとん店　三川町五丁目　電六二三四番
西田洋服店　三里町一丁目　電六一九四番
泉田洋服店　三川町五丁目　電六一三六番
三川屋靴店　三里町二丁目　電六二七二番
金子靴店　三川町四丁目
古賀時計店　三川町四丁目
平賀時計店　三川町四丁目
吉川電氣商會　三里町二丁目　電六三三八番
野田家具店　三川町三丁目　電六〇八五番
山本　國吾自轉車店　三川町五丁目　電六一二七番　三川町一丁目　電四一七六番